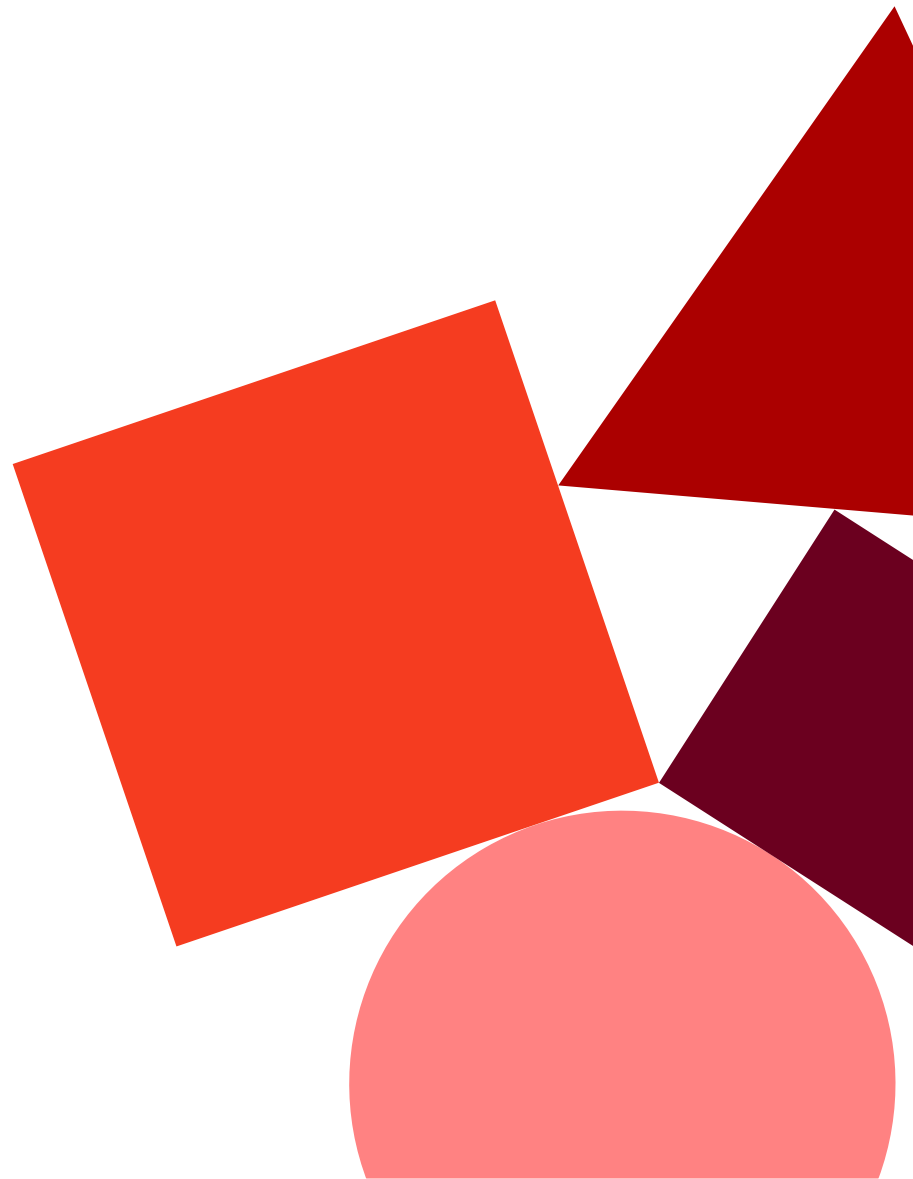


【自動処理活用】 明細情報を 複数レコードに分割



はじめに



「楽楽販売」では、自動処理を利用して、明細情報を別DBのレコード1行として登録することが可能です。

本資料では、

A-DBでは、1レコードの明細単位で管理されている情報を自動処理を利用して、

B-DBでは、レコード1行ごとに登録する方法をご紹介します。

A-DB

発注No	仕入先名	発注日	商品名	受納品予定日
0001	A社	2022年9月15日	商品W	2022年9月30日
			商品X	2022年10月7日

(1) A社に対するレコードに
明細情報が作成されている。

B-DB

検品No	仕入先名	商品名	納品予定日	検品日
0001	A社	商品W	2022年9月30日	2022年3月
0002	A社	商品X	2022年10月7日	2022年3月

(2) A-DBからB-DBに
データ連携する自動処理を実行する。

(3) A-DBの明細情報を
B-DBのレコード1行として登録する。

具体例

各部門の前提

発注DB:発注伝票の単位で発注DBにデータを作成したい。

検品DB:納品される商品の単位で検品DBにデータを作成したい。

実施できること

発注DBでは、仕入先が「A社」かつ明細行に商品情報および納品予定日が作成されている1レコードを

検品DBでは商品情報ごとの2レコードに分割することが自動処理で実現できます。

A-DB

発注No	仕入先名	発注日	商品名	受納品予定日
0001	A社	2022年9月15日	商品W	2022年9月30日
			商品X	2022年10月7日

B-DB

検品No	仕入先名	商品名	納品予定日	検品日
0001	A社	商品W	2022年9月30日	2022年3月
0002	A社	商品X	2022年10月7日	2022年3月

発注No:0001の1行目の明細内容がレコード情報として登録されている。

発注No:0002の1行目の明細内容がレコード情報として登録されている。

自動処理の設定内容

1レコード・複数明細行を明細行数分のレコードに分割するために必要な自動処理設定は下記です。

※分割処理自体は、ひとつの自動処理パーツで実現が可能です。

自動処理の実行単位

実行単位は「明細単位」を選択します。

※「明細単位」の場合、明細行毎にレコード登録の処理が実行されるため、明細行数分のレコードが連携先DB(今回の場合: 検品DB)に登録されます。

登録先DBの選択

検品登録の自動処理にて、分割したレコードを登録するDBを選択します。

※下記が対象DBを選択した際の一例です。

検品登録

[« 一覧に戻る](#)

処理タイプ	レコード登録
対象DB	設定対象のDBグループ: 検品DB

次へリセット

自動処理パーツの役割

発注DBの内容を検品DBに登録します。

※下記は設定方法例です。

処理タイプ	レコード登録
対象DB	検品DB
登録後の承認フロー	承認フローが設定されています。
ヘッダ項目	
検品ID *	<input checked="" type="checkbox"/> 連番部分は自動的に自動で値が入ります 【選択明細】 [発注DB] ▼
仕入先名 <input type="checkbox"/> 連結	【選択明細】 [発注DB] ▼ : 仕入先名 <input type="button" value="選択"/>
商品名 <input type="checkbox"/> 連結	【選択明細】 [発注DB] ▼ : 商品名 <input type="button" value="選択"/>
納品予定日 <input type="checkbox"/> 計算	【選択明細】 [発注DB] ▼ : 納品予定日 <input type="button" value="選択"/>
検品日 <input type="checkbox"/> 計算	(指定しない) ▼

明細情報の登録先DBを設定。
※今回の場合: 検品DB

検品DBの各ヘッダ項目に、
発注DBのどの明細項目を登録
するかを設定する。